



学校だより

10月号

平成28年10月3日
横浜市立善部小学校
校長 小澤 紀子

トコロジスト

学校長 小澤 紀子



「自然を学び、守るエコロジストはよく聞くが、トコロジストという言葉は知らなかった。」と、9月25日付の朝日新聞の天声人語は始まりました。みなさんはトコロジストという言葉をご存知でしょうか？私も初めて聞く言葉でしたが、「公園や森など身のまわりの自然をじっくり観察する『その場所の専門家』」とのことです。地形図を片手に公園を歩き、小さな花や虫を書き込みながらいろいろな物を発見し、その場所に精通していくのだそうです。幼い子と歩いて気づいた経験も書かれていました。「そうそう。ゆっくり歩くといろいろな発見があるのよね。」と一人つぶやき筆者のように歩いてみました。コンクリートの道なのに、あちこちから虫の声が聞こえます。「あれ？いつから虫の声が聞こえていたかしら？」しかも、何の虫の声かわかりません。庭先には小さな花が咲いています。「花の名前は何かしら？」今まで気が付かなかったありも行列を作っていました。「どこに行くんだらう？」そう言ってありを追いかけ、離れた所で巣を見つけた子どもの頃のことを思い出したりもしました。あらら。意識して周りを見てみると季節は移り、新たな気づきとともに、知らなかったこと・わからないことも見つかります。毎日通っている道なのに…。

校長室の窓の外には、4年生が育てたゴーヤのグリーンカーテンがどんどん伸びて2階を越して3階に届きそうです。そういえば校舎裏にはヘチマが大きく育っていました。5年生のバケツ稲は穂を垂れています。いつの間にか現れた手作りかかしが見守っています。

いろいろなことに目を向けていると、善部小にはトコロジストの卵がたくさんいることに気が付きました。1年生は善部公園に秋を発見に行っています。春や夏にも行き、季節を感じるものをたくさん見つけてきました。小さなどんぐりを大事に握りしめ、見せてくれた子もいました。「落ち葉の下には何があるのかな？今日は何を見つけてくるのかな？」わくわくの発見です。

かつて1年生の担任だった時のことです。鉛筆がたくさん机の上にあったので、しまおうと筆箱をあけてみると、ダンゴ虫が何匹も入っていました。しかも他にも何人もいます。見つけたダンゴ虫がかわいくて家に持って帰りたいけど籠がない。「そうだ！」という顛末でした。もちろん私は「筆箱でダンゴ虫を飼ってはいけません～ん！」となるわけですが…。見つけたものは宝物です。

2年生や3年生は町を探検しました。公園やお気に入りの場所を見つけます。町にある宝物を発見していきます。道端で公園で、飽きることなくじっと見つめる子どもたち。皆、自分たちの身近にある大事なものに気が付いていく立派なトコロジストの卵です。

「進む速さを変えると、見えるものが変わる。」心をひく一文でした。いつも通る道なのに、見えていない物や、気づかないことがありました。『あわただしく進んでいく毎日の中で、見落としたものはないか？ふと立ち止まった時に初めて見えてくることもあるのではないか？』飛ぶように過ぎて行った前期を振り返り、大事なものを見落とさないように、一度立ち止まったり、ゆっくり進んだりして、新たな後期の一步につなげていこうと改めて思いました。

間もなく前期が終了いたします。本校教育活動にご理解ご協力をいただきました保護者の皆様、地域の皆様、ありがとうございます。また、登下校の無事を見守ってくださる児童見守り安全ボランティアの皆様。木工教室、音楽のつどいなど豊かな体験にご尽力いただきましたPTA役員の皆様、南希望ヶ丘中学校の皆様。今年も芸術鑑賞会で素晴らしい演奏・パフォーマンスで子どもたちを魅了してくださった横浜隼人中学・高等学校の皆様。心より感謝申し上げます。

ふと立ち止まると、金木犀の甘い香りが風にのってきました。秋いっぱいです。